



日本共産党市議会議員(川崎区)

かたやなぎ 進

片柳すすむブログ
はこちらから→



●発行：日本共産党
川崎市議会議員団
川崎区宮本町1
市役所第二庁舎7階
TEL 200-3360
FAX 245-4140
その他の連絡先
TEL 246-6823

片柳すすむ市政報告

羽田新ルート・臨海部石油コンビナート上空での航空機事故の被害想定を市長に要求

片柳市議
代表質問

JFE 高炉休止 リストラ 市は雇用対策本部設置を

2021年第2回川崎市議会定例会が、5月31日から6月23日までの日程で行われました。片柳すすむ市議会議員は、6月10日に日本共産党の代表質問を行い、21日には一般質問を行いました。片柳市議はそのなかで地域経済や教育、支所で担っている業務の区役所への二元化などについて取り上げました。

代表質問 JFEリストラ計画 市の権限で雇用対策を

JFE スチール(株)がすすめる高炉休止計画。



代表質問をする片柳市議

片柳市議は、約2兆円もの内部留保を持ち21年度は黒字に転換する見込みのJFEが、労働者を犠牲に利益を追求する計画を実施する道理はないと指摘し、関連・下請含め将来不安で退職者が出ている実態を示し、市がJFEに高炉休止をやめ地域経済を守るよう求めること、神奈川県労働局と連携し雇用対策本部を設置することなどを要求しました。

市には雇用対策の権限がある

市長は「権限や責任のある機関が

今月号の内容

- ▼ 1面
 - ① JFEリストラ市が対策を
 - ② 羽田新ルート 航空機事故対策を
 - ③ 校則—こどもが変えていい
 - ④ 要望実現/天飛公園にロープ柵
- ▼ 2面
 - ① 市民の声/
 - ② 文教委員会/中高も少人数学級を
 - ③ 中国—国際法無視の横暴やめよ
 - ④ ホームレス抜けた先の展望を
 - ⑤ コラム/宮前小100周年の歴史

適切な措置を」と国任せの回答。片柳市議は「地域経済への影響が甚大な場合には市が雇用対策本部を設置する権限がある」と質問しましたが、市長は同じ答弁を繰り返しました。

片柳市議は「地域経済に深刻な影響を与えるリストラに対応せず、臨海部大企業が土地を売却すれば最大27億円も支援する市政には市民の厳しい批判がある」と述べ、高炉休止と地域経済を守るよう求めました。

代表質問 コンビナート航空機事故 被害想定と避難計画を

片柳市議は、川崎市が国に提出した「予算要望書」では、コンビナートでの航空機事故の被害については「落下物対策」「上空飛行における安全対策」など抽象的な要望にとどまっていると指摘。「航空機事故の被害想定や調査もしないのは異常」と述べ、新ルートを進めた国に調査を要望するよう求めました。危機管理監は「市の計画に航空機事故の項目を追記した」と回答しました。

被害想定を明示する責任果たせ

片柳市議は「航空機事故には国の計画で対応するというだけで、コンビナート事故の被害想定や対応策は

明示してないが、どう防災対策を行い避難対象地域を定めるのか」と再質問。



千鳥町の工場群(川崎市サイトより)

危機管理監は「市の航空機災害警防活動指針で対応する」と回答しましたが、片柳市議は「この指針はコンビナート上空飛行禁止の通知が有効だった04年に策定されたが、現在では市が通知を撤回し年間8千便がコンビナート上空を飛んでいる。この経緯を見れば、市長が被害想定や避難計画を明らかにする責任を果たすべきだ」と市長に強く求めました。

一般質問 「ブラック校則」は子ども が変えていい、と発信を

全国的な「ブラック校則」問題を背景に、文科省は「校則について児童生徒・保護者との共通理解を」「児童生徒が話し合いつつ常に校則の見直しを」「校則見直しを児童生徒の主体性を培う機会に」などを要点とする通知を出しました。

片柳市議は「子どもは自分に関することを自分で決めることができる」「自分に関することを年齢と成熟に応じて決める権利が保障されなければならぬ」と子どもたちの権利条例も示し、通知に基づき理不尽な校則

現実 小田栄・天飛公園 飛び出し防止柵が設置

近所の方から「ボール遊びの子どもが、バス道路に飛び出す心配」との声が寄せられていました。昨年のボール飛び出しを防ぐネットの取り付けに続き、今度は「ロープ柵」が公園の道路側に設置されました。公園で球技の練習をしていたお子さんたちから感謝の声が寄せられました。



天飛公園に子どもの飛び出し防止の「ロープ柵」が設置されました

などについて児童生徒が『おかしい』と思ったら変えられるように制度を見直すべき」と質問しました。教育次長は「市として校則にかかわる取り決めをしていない」と答え、教育長は「各学校が実情に応じて検討すべきもの」と答えました。

「校則は変えていい」とメッセージを

片柳市議は「学校での実情に応じたとりくみと、教育委員会が子どもに『学校のルールは自分たちで決めていい』というメッセージを出すことは矛盾しない。明確なメッセージを出すべき」と求めました。



藤崎在住 Sさん

休日急患診療所「トイレ」で 具合が悪くなった時の対応を

片柳市議が一般質問で休日診療所のトイレの問題を取り上げる(質問内容は次号に掲載予定です)編集委員会)と聞いて、議会に傍聴に行きました。以前に利用した機会に「トイレ利用時に倒れた人がいたら大丈夫なの?」と心配だったからです。

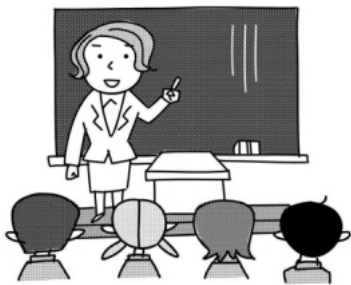
教会 文委 中・高も少人数数学級を 僅差で請願は「不採択」

6月11日の文教委員会「少人数数学級の推進など定数改善、義務教育費国庫負担制度堅持に係る意見書提出の要請に関する請願」の審議が行われました。

中学校・高校での35人学級を早急に実現することをはじめ豊かな教育環境を整備する予算の確保を求めるとともに、義務教育国庫負担制度の堅持、自治体が国の標準を超えて少人数学級を拡充することができるよう加配教員の削減をしないように求めるものです。

いずれも重要な内容です。日本共産党は10年前の文科省の調査の時点でも多くの市民や教職員団体

議会でのやり取りを聞いて「質問に答えている局長さんはどこまで自分の管轄のことを承知しているのだろうか?」と思いました。ぜひ質問の機会に実際に現場を見てほしいと思います。トイレの呼び出しボタンや非常時の機能はすべて使われないかもしれないかもしれませんが、もし何かあったときに対応できなかったら遅いのです。ホームレスの質問も聞きましたが、川崎駅前のロータリーでイスの上で横になっている人も見ました。市民に寄り添った市政になるよう頑張っ



PTA連
合会など
が「高校
での少人
数学級」
を求めた
ことを紹
介。さら
に、中学校での少人数学級は20政

令市のうち12市が実施しており、川崎市の「中1ギャップ(小学校を卒業し中学に進学すると不登校が大幅に増えるなどの生徒への影響)」の実態も示して、請願を採択するよう求めました。

文教委員会でも1票差で不採択とされ、本会議でも共産党はじめ27人が採択を求めたものの、自民・公明など32人が求めたため不採択とされました。

意見書案

中国「海警法」―国際法 無視の横暴やめると提案

共産党市議団は「中国海警法に対する適切な対応を求める意見書」を提案しました。航行の自由を保障した国際法を無視した中国政府の『海警法』に対し、日本政府が抗議と外交的な対応を行うよう求めるものです。これに対して自民・公明・みらいは「日本の領土及び東シナ海の平和を守るための更なる対応を求める意見書」を提案しました。

国際法に基づく平和解決こそ

日本共産党は自民ら3会派案の問題点を反対討論で指摘しました。第一に、国際法を無視した「中国海警法」の撤回を求めておらず、日本政府に外交的な対応も要求していないことです。第二に「積極的平和主義」「日米同盟強化」など軍事的な対応を求めるものとなっており、アジアの軍事的な危険を高めかねないことです。私たちは、日本政府が中国に対し「国際法違反を改めよ」と求めることなど平和的な解決をめざすことこそ、憲法に則った日本政府が果たすべき役割だと述べました。

共産党案は賛成少数で否決。3会派案は賛成多数で可決されました。

一般質問

路上生活を抜け出した先 に展望が持てる支援策を

片柳市議は「他の利用者にいじめられた」「扇風機だけでは夏は辛い」

などの実態を述べ、

ホームレス自立支援センターの居室の個室化と空調の設置について質問し



ました。健康福祉局長は「個室は有効だと認識している」「新型コロナウイルス感染症の状況をふまえ民間アパート8室を借り上げ、分館として個室の拡充を図っている」と回答しました。次に片柳市議は、アパートへの入居と同時に丁寧に自立をサポートする「ハウジングファースト」型の取り組みについて質問。健康福祉局長は「長期に野宿生活をされていた方が1名がアパートでの自立につながった」と回答しました。

「持ち去り対策」より支援策を

片柳市議はさらに多くの室数を確保し対象人数を増やすよう求めました。さらに、市が提案した「資源物の持ち去りへの対応指針」が、ホームレスの自立支援について「従来の事業を活用する」と述べるに留まっていることを指摘。自立支援センターの個室化や空調設置をすすめる、ハウジングファーストの取り組みをすすめることなど、路上生活を抜け出した先に安定した生活が見えるよう支援策を強めることを要望しました。

宮前小100年の歴史にふれて

7月3日、宮前小学校の創立100周年記念式典に、来賓として招待して頂きました。

1〜3年生は学校の好きなどころや歴史、地域のことを紹介。4年生はいろいろな国の出身の友だちのことやその文化(写真)を、5・6年生はバリアフリーや持続可能な社会を目指すSDGsなどを発表。素晴らしい内容でした。息子たちの頑張る姿にも励まされました。



No. 72 片柳すすむ

日進月歩

宮前小学校卒業生の斎藤文夫実行委員長は自らの戦争体験から平和のもとで学べる素晴らしさと大切さを、丸山衛校長先生もご

自身が豆町小学校に通っていた時には、校舎に戦災の跡があったことなどを話されており、非常に印象的でした。子どもたちが戦争のない世界で多様な文化に触れてのびのび学び成長してほしいと改めて思いました。

